



2021年6月8日NEOMA「暖房負荷から考える外皮設計の作法」アカデミー参考資料

「Q1.0住宅のご紹介」

①Q1.0住宅とは、建物の断熱性能、設備効率、気象データに基づいて計算された省エネ住宅。

- ・20℃で全室暖房の時の延床1㎡あたり暖房エネルギーを省エネ基準のモデル建物と比較した場合の削減量で示します。
- ・建物のUA値、外皮面積、換気効率、開口部からの日射熱、外気温により計算結果が異なります。
→大雑把な断熱地域区分のような代表地でなく、実際の建築条件に近い条件で計算できる。

②Q1住宅のレベル

- ・暖房エネルギー（室温20℃での全室暖房想定）削減量で4つ（L1～L4）のレベルを設定。
- ・L3を目指すレベルとしています。
- ・算出は計算プログラムQPEX計算により算出します。

Q1.0住宅のレベル

	Q1.0住宅の暖房エネルギー			
	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
1～2地域	55%	45%	35%	25%
3地域	50%	40%	30%	20%
4地域	45%	35%	25%	15%
5～6地域	40%	30%	20%	10%

③Q1住宅のレベルとHEAT20の断熱グレードの断熱仕様のレベル感

計算に当たっては、建物のUA値、断熱外皮面積、換気効率、開口部からの日射熱、外気温等がパラメーターとなります。UA値はそのうちの1条件となります。

下図は120㎡のモデルプランを想定したときの外皮断熱レベルの相関イメージを示しています。

※HEAT20グレードG×だからQ1.0住宅のレベルL×という保証をするものではありません。同じUA値でも建物の形・大きさや日射熱や換気効率が変われば計算結果は異なります。

Q1.0住宅とHEAT20の相関イメージ図

120㎡モデルプランの場合のイメージ

